1. 令和6年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△31.2ポイント。製造業は7ポイント、小売業16ポイント、サービス業11ポイント上がったが、卸売業は11ポイント下がり、建設業は横ばい。前期の1～3月の△35.8ポイントから4.6ポイントプラスとなった。

業種 / 項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 38 (△ 50)	△ 50 (△ 56)	△ 33 (△ 22)	△ 32 (△ 29)	△ 33 (△ 44)	△ 25 (△ 33)	△ 50 (△ 61)	△ 28 (△ 59)	△ 11 (△ 33)	12 (△ 24)
採算	△ 44 (△ 44)	△ 50 (△ 44)	△ 45 (△ 45)	△ 37 (△ 41)	△ 44 (△ 33)	△ 13 (△ 33)	△ 30 (△ 48)	△ 28 (△ 50)	△ 29 (△ 41)	△ 13 (△ 41)
資金繰り	△ 13 (△ 6)	△ 6 (△ 25)	△ 28 (△ 28)	△ 24 (△ 23)	△ 33 (△ 11)	△ 29 (△ 33)	△ 38 (△ 42)	△ 31 (△ 46)	△ 11 (△ 35)	0 (△ 24)
業況	△ 38 (△ 38)	△ 33 (△ 53)	△ 34 (△ 41)	△ 37 (△ 35)	△ 22 (△ 11)	0 (△ 11)	△ 38 (△ 54)	△ 34 (△ 44)	△ 24 (△ 35)	△ 12 (△ 41)
経営上の当面する問題点 1位	民間需要の停滞		需要の停滞		人件費以外の経費の増加		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
2位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		需要の停滞	
3位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
業種別コメント	需要の停滞は継続しているものの、原材料価格の上昇分の建設費への転嫁が進み、売上高は12ポイントプラスとなった。採算・業況は横ばいであったが、資金繰りはコロナ融資の返済が響いて7ポイントマイナスとなった。来期は資材価格、人件費等の固定費増加により引き続き厳しい見通しが予想されるが、その他の項目での回復を期待している。		需要の停滞により売上高は11ポイントマイナスとなった。原材料価格の上昇が続いているものの、採算・資金繰りは横ばい、業況は7ポイントプラスとなった。来期は売上高・資金繰り・業況は需要の停滞により厳しい状況が予想されるが、生産コストの価格転嫁を推進できれば採算の回復は期待できる。		流通コスト等の増加分について卸売価格への転嫁が進み、売上高は11ポイントプラスとなった。需要の停滞から、採算は11ポイント、資金繰りは22ポイント、業況は11ポイントマイナスと厳しい状況となっている。来期は夏商戦に向けた需要の期待から全項目での回復が期待されている。		物価高騰による消費者の買い控えの傾向は継続しているものの、新年度による季節需要により売上高は11ポイント、採算は18ポイント、資金繰りは4ポイント、業況は6ポイントと全項目でプラスとなった。来期は仕入コストの価格転嫁が進み、採算も改善が予想され全項目で回復が期待できる。		依然として原材料価格や間接経費増加が続いている中、売上高は22ポイント、採算は12ポイント、資金繰りは24ポイント、業況は11ポイントと全項目でプラスとなり景気回復の兆しが見えてきた。来期は今期同様に全項目でポイントの改善が予想され、特に売上高・資金繰りは大幅な回復が期待できる。	

とくに好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
(50≦DI)	(25≦DI<50)	(0≦DI<25)	(△25≦DI<0)	(DI<△25)

※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値